

# フライングモール DAD-M100pro HT

超小型4Ω負荷160W 高効率デジタル  
モノラルパワーアンプ ¥35,000/1台



総合変換効率85%という高性能で話題を呼んだフライングモールのデジタルパワーアンプだが、2003年夏にリリースされたプロユース仕様、DAD-M100proシリーズの試聴機会を得たので紹介する。

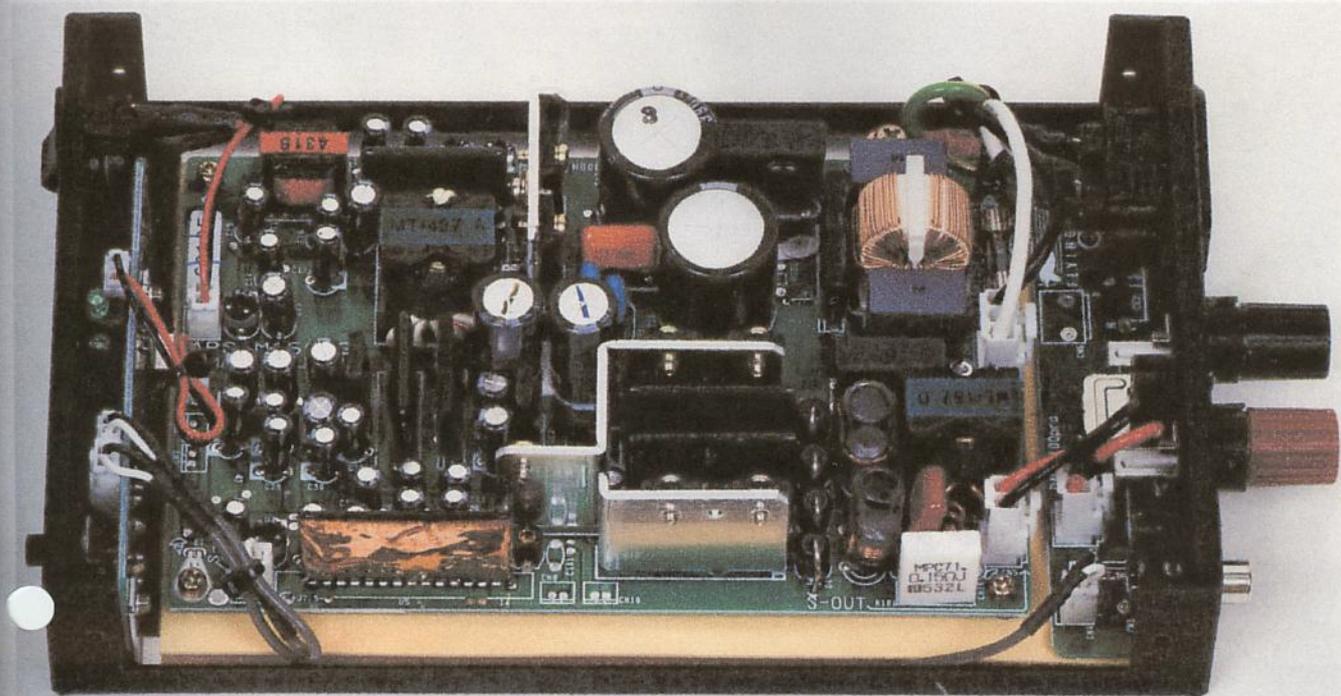
送られてきた試聴機の梱包を開け、マシンを手にしたときの驚きは、その小さなサイズと予測を裏切る軽さだった。「これで本当に100Wもの出力が…」と思うのも無理はない、モノラル構成のアンプをステレオ分、2台並べて置いてもA4用紙1枚にほぼ収まってしまうのである。厚みは43ミリとEIA規格の1U程度、重量は1台あたり約650gと、普段コンビニで手にするペットボトルくらいの感覚である。

これを実現したのは同社独自の信号回路と電源方式の採用によるもの。内容はMJ誌2002年9月号やフライングモールのホームページ([www.flyingmole.co.jp](http://www.flyingmole.co.jp))に詳しいので割愛するが、大型の電源トラン

スとヒートシンクの排除に成功した結果である。

DAD-M100proシリーズは全5機種、ともにモノラル仕様となっており、バランス(XLR型)入力を持つBIタイプは出力端子にノイトリック社のスピコンを装備。RCA入力のHTは、2連のバナナプラグピッチを持つ、いわゆるスピーカー端子を、また、CIタイプは入出力ともに4mmのネジ式端子搭載となっている。このうちBIとHTには、バッテリーなどの12V直流電源からの駆動にも対応した2ウェイ電源型がある。

出力は8Ω負荷で100W、4Ωでは160Wを定格としている。ボリュームは減衰なしの状態から-30dBまでとなっており、絞りきりにはできないが、サウンドシステムのトータルゲイン調整にはミクサーやプリアンプなどが前段にあることを考えれば、これで十分な調整範囲だろう。



スイッチング電源、PWM変換器、デジタルパワーアンプ部など、主要回路がモジュール化されている内部構造。ちょっと見ただけではスイッチング電源装置にしか見えない。



入力端子はRCAピンジャック、出力端子は大型のバインディングポスト、ACインレットはIEC3ピン型と極めてオーソドックス。

- 主な規格
- ▶定格出力:160W(4Ω/THD10%), 100W(8Ω/THD1%)
- ▶周波数特性:5Hz~25kHz(4Ω/+0, -3dB), 5Hz~50kHz(8Ω/+0, -3dB)
- ▶全高調波歪率:0.05%(4Ω/1kHz, 50W出力時), 0.03%(8Ω/1kHz, 50W出力時)
- ▶S/N:120dB(400Hz~30kHz, BPF)
- ▶ダンピングファクター:200(8Ω, 1kHz)
- ▶入力感度・インピーダンス:1Vrms・4.7kΩ
- ▶寸法・重量:132W×43H×238Dmm・約650g
- 資料請求先:(株)フライングモール MJ3係  
〒431-1115 静岡県浜松市和地町5199-1  
<http://www.flyingmole.co.jp/>

別売として本機を6連装する把手付きマウントアダプターや垂直面などに固定するためのL型アングルが用意されている。これを使えば、気に入ったスピーカーシステムに本機を背負わせ、最短のケーブル長でパワードタイプのように見立てることもできる。なにしろ取り回しが軽快なだけに、現場といったプロユースに限らず、さまざまな使い方が楽しめそうだ。  
(半澤公一)

## ストレートにソースの音を吐き出す

小型、軽量とあまりにコンパクトだったので、実際に音を聴くまで若干の不安があったことは否めない。しかしパワーアンプにとって決して楽とは思えないMJ試聴室のスピーカーシステムB&W Matrix 801からドーンと音が出た瞬間に、余計な先入観は忘れてしまった。

ボリューム操作の上下に従い、音量感がよく追従してくる。この感触は機器への信頼につながる大切な要因。また、再生音の圧縮感が少なく、ストレートにソースの音を吐き出す。この2点に好印象を持った。

音質は通电後、30分程度でこなれてきたようで、高域のきめ細かさに特徴を見せた。特にヴォーカルは言葉尻まで抜けがよく、歌詞がわかりやすい。スピーカーの手前にできる音場と、やや大きめの音像とが相まってポップス系が得意そうだ。

試聴後、密閉されている本体に触れてみたが、ほんのりと温もりを感じる程度。何か新しいものに出会った気持ちである。  
(半澤公一)